

あとがき


いかがでしたか？新たなコミュニティの概観をつかんでいただけたでしょうか？

農村地域におけるコミュニティの基本単位は、一般には、今後も当分の間は集落であることに変わりないと思われます。本冊子で「新たなコミュニティづくりを考えてみませんか？」とはいっても、そのことを否定するものではありません。仮に新たなコミュニティの組織が結成されたとしても、生活の基本となる個々の集落は残りますし、集落の中の個々の家あるいは人々の関係はもちろんそのままです。ただ、集落を超えた農村全体の活性化の観点から個々の集落の活動を再点検してみる、あるいは集落を超えたより広域での地域活動の占めるウエイトがそれまでよりも高くなる、ということだけです。

集落の連携による新たなコミュニティづくりは、既存の集落の自治組織がそのまま継続するため、いわゆるコミュニティ再編の中でも、集落の統合とは異なり、住民にとっては比較的受け入れやすい施策ではないかと考えられます。

ただし、何らかの既存組織を母体として新たなコミュニティ形成をすすめるのではなく、まったく新規にコミュニティ形成をする場合は、それなりにご苦労があるものと思われます。世代間の軋轢があるかもしれません。新たなコミュニティ形成を担っていける人材がいればいいのですが、いなければ、育てながらコミュニティ形成をすすめていかなければなりません。

改めていうまでもないのですが、新たなコミュニティの形成については、組織を発足させることが最終目標ではありません。大切なのは活動を続けていくことです。住民の理解を得ながら、住民のやる気を引き出しながら、新たなコミュニティづくりにじっくり取り組んでみてください。



本冊子では、「できるだけ多くの地域に該当する」と考えられる一般的な事項・考え方について整理したつもりです。
ただし、「十人十色」というように、地域も、北は北海道から南は沖縄まで「さまざま」であり、読者の地域に該当しない事項・考え方があるかもしれません。そのことを踏まえて本冊子をご活用ください。

メモ

平成19年3月
農林水産省農村振興局企画部農村政策課農村整備総合調整室
財団法人農村開発企画委員会

